

## レイチェル・カーソンの「沈黙の春」から60周年、未だに環境問題！

60年前の1962年6月30日、米国のレイチェル・カーソンが、農薬などの大量使用による環境汚染を告発した「沈黙の春」を出版しました。その年の8月、ケネディ大統領は、大統領の諮問委員会にて農薬問題の検討をすると記者会見にて言及しました。当初、DDTなどの農薬・殺虫剤は、大変効果があるため、飛行機などによる空中散布、街頭、教室、食堂などに散布されていましたが、人体への影響、環境汚染問題など引き起こしました。日本では、DDTは1971年に販売禁止され、BHC、エルドリン、ディルドリンなどの農薬・殺虫剤も使用禁止になりました。「沈黙の春」は、環境問題を考える契機となりました。



1939  
**DDT**  
DDT was first synthesized in 1874 but in 1939 its use as an insecticide is discovered and it becomes the first of the modern, synthetic insecticides.

訳：DDTは、1874年に発見されましたが、1939年に殺虫剤としての使用が発見され、現代の合成殺虫剤の最初のものになりました。（注1）：レイチェル・カーソンの伝記

Consumer Reports 5月号に、社長兼 CEO のテラドさんが、カーソンの「沈黙の春」について、述べています。「沈黙の春が出版されて60周年になります。農薬使用の危険性について、初めて書かれたこの本から、刺激を受けた国民の抗議から、連邦法につながり、環境保護庁が立ち上がるきっかけになりました。60年後の今、PFASという次の沈黙の脅威に対して行動を起こそう。」

このPFAS（ピーファス）とは、1940年代頃から普及していた化学物質で、水や油をはじき、熱や薬品に強く光を吸収しないなどの特性を持った化学物質で、撥水剤、表面処理剤、乳化剤、消火剤、コーティング等に幅広く用いられています。一方、Forever Chemicals（永久に残る化学物質）と呼ばれ、自然界や体内で分解されにくく、蓄積されやすい性質を持つと言われていています。人体へは、水と食品から侵入します。農作物栽培での土壌からと食品の包装・容器から侵入する場合があります。近年の研究で、発がん性や免疫力の低下などさまざまな健康被害の可能性が指摘されています。

昨年10月に、バイデン政権は「PFAS 汚染対策計画」を開始しました。PFAS への取組みとクリーンな空気、水、食料の推進に向けた包括的なアプローチを図るため、環境保護庁から行程表を発表しました。（注2）

マクドナルドは、2025年までに全ての包装・容器からPFASを全廃すると、また、アマゾンも自社ブランドの食品製品の包装・容器でPFASの使用を禁止すると発表しています。（注3）

日本では、まだ、話題に上がっていませんが、注視していきたいと思えます。

（注1） Timeline 1938 [Rachel Carson, Timeline - Interactive](#)

（注2） [FACT SHEET: Biden-Harris Administration Launches Plan to Combat PFAS Pollution | The White House](#)

（注3） PFAS [バイデン米政権、有機フッ素化合物 PFAS の規制を強化へ\(米国\) | ビジネス短信 - ジェトロ \(jetro.go.jp\)](#)